

ホームレス支援ニュースNo.9

2008年10月31日

広島県社会福祉士会ホームレス支援委員会(編集:岡崎仁史)

この事業は、県民の皆様の寄付金である広島県共同募金事業の配分金等を受けて事業を展開しています。ありがとうございました。

(特集)「なお続く、路上の孤独死」

◆広島市においては、1987年にボランティア団体「広島夜回りの会」が路上生活者支援活動を始めて既に21年経ち、2003年以降本会も夜回りへの参加、2004年にくつろぎ入浴サービスを始めて4.5年経っているが、やはり依然として全ての人が脱路上になっていません。

◆ホームレス支援委員会は、約10名のメンバーで、2002年以来、広島、呉、福山の地域で、夜回りへの参加、くつろぎ・入浴サービスの提供、生活相談、就労・生保申請支援、医療サービスへのつなぎ等の支援を通して、ホームレス者の脱路上支援を行っています。月1回のボランティアでも結構です。皆さんも参加してください。

◆誰もが個人は他者・社会との相互関係の中で自己実現や社会貢献を求めて人生を作り上げており、存在することの意味の無い人はいません。社会福祉は、全ての人は能力に関係なく存在自体に意味があり人間の尊厳が尊重され、社会は個人を社会統合するという理念に立っています。社会的個人は生まれて生きて人生を終えるときに、路上の孤独死のように、市民社会の外部に位置して、個人もニーズ表明を諦め誰からも見送られない死というのは余りにも悲しいですね。ボランティアが夜回りして社会に統合しようと頑張っても起きるのです。雇用、社会保障、社会福祉を中核とする福祉国家体制を改善するとともに、個人と弱い家族をカバーする自治的な地域社会を基盤とする福祉社会形成が重要です。国のホームレス全国調査(2007年)では、脱路上の決め手である生保受給者の廃止の理由は、自立に「行方不明」「蒸発」が約40%あり、如何に脱路上後の、再び路上に帰らなくても良いように、所属感が持てて必要な時に相談できて安心感をもてる人間関係・社会関係の重要性を示しています。

「路上死を防ぐために」 呉夜回り班。中・南支部長 坂田 久典

(10名前後の存在)呉では、2003年1月の厚生労働省実態調査の時に8人の路上生活者が確認されています。その後、広島県社会福祉協議会と広島県社会福祉士会、そしてボランティアの手により本格的に安否確認と物品配布、相談を中心に夜回り支援を始めました。2004年の12月～2005年の3月では10人、さらに12月には11人と増えていきました。

(呉市行政、社協との協働)2006年からは夏と冬の年2回ではあるが、呉市行政(健康チェックなど保健師の派遣や住宅や雇用など生活福祉課職員による相談)と呉市社会福祉協議会も支援に参加することとなり、ここに行政との連携が生まれました。

(一時減少再び増加)これ以降、何人かが路上生活を脱却され一時4人まで減少し喜んでいましたが、2007年末から再び増加しはじめ、2008年9月末には女性の方を含め15人を確認することとなりました。

(残念な路上死)当会を中心に、毎月1回2～4人で夜回り支援を行っており、最近、活動の限界を感じているさなか、1本の電話がかかってきました。それは、橋脚付近で路上生活者の白骨死体が見つかったという知らせで、紺のジャージ姿で亡くなっていたということでした。呉警察署は、県社会福祉士会が呉地域の路上生活者の支援をしていることを呉市生活福祉課より聞き、これを受け、身元がわからないので何か情報提供していただきたいというものであったが、我々もその方についてはまったくわかりませんでした。

(支援ネットワークを広げること)悔やまれるのは、亡くなられた方も橋脚で住んでいたのです

が、我々はその 60m 反対側の位置で生活されている男性への支援をしていることで、誰か(つまり、亡くなった方)が生活しているとの情報がある中で、何度か確認に行っている事実があったということでした。これは、まさしくこれはマンパワー不足によるもので、網の目から漏れてしまっておきた残念な事件です。

幸いなことは、この事件をきっかけに呉警察署員2人が夜回りに同行され、呉地域の路上生活者に対して初めて個別聞き取りをされました。私たちの方から路上生活者に対して今回の事件のことや安全な生活をしていただくためにもと、ご事前に説明したところ快く対応して下さいました。活動終了後、警察署員がこんなにたくさん路上生活者がおられるのならもっと本格的に調査しないとイケないと言われたことが心に残っています。

呉地域の夜回り支援も4年目を迎えています。最初は点であった支援も福祉行政が参加し、今回警察行政も形はどうであれ関わりました。点が線になり、また公的機関との連携が出来てもこのような事件が起きました。線から面へと地域支援していくためにも、他の医療福祉、精神保健、看護等の専門職団体、DV 関係の専門職や住民ボランティアの協力が不可欠ではないでしょうか。

最後に亡くなられた方のご冥福を心よりお祈り申し上げます。

■女性ホームレス者支援に関わって

中南部支部 垣内富子

私は健康保持のためウォーキングを兼ねて夜回りをしています。いつもホームレス者が集っている場所で知り合いに声掛けをしたところ「最近、女性ホームレスのAさんがいるよ」と教えてもらいました。とても気になっており、何日か後見かけたが、とても厳しい表情なので近寄り難く接触できずにいました。不自由していない様子だが、安全を考えると犯罪に巻き込まれる可能性もあり、早急な支援が必要と考えました。

初めて声をかけたのは月例の福祉士会夜回りの前日のことで、翌日の待ち合わせを約束して、待っていてほしいと伝えました。その後の関わりでは、最初はなかなか乗り気ではなかったが、声掛けを続けていくうちに次第に会話ができるようになり、最終的にはできれば仕事に就きたいという意志があることを確認できました。

そして、Aさん、婦人相談員、広島子ども家庭センターとの協議の結果、一時保護が可能となり、Aさんは広島子ども家庭センターに入所した。しかしその翌日、Aさんの生活習慣と施設の規則が合わず退所となり、また元の場所に帰ってこられました。突然の出来事に、今までの苦労はなんだっただろうという虚しい気持ちになりましたが、根気よく支援するしかないと思っています。

今回のAさんとの関わりで見えてきたものは、ホームレス者がその生活を脱却しようと決心し行動を始めた時に、脱却の各段階においてその人に応じた適切な支援がスムーズに行われる必要があるということであり、それはホームレスになった経緯が一人ひとり異なることを支援者は十分に理解して、その人に応じた、言わばオーダーメイドの支援が必要ということである。自立という目的に向かって何をすべきか、また手助けできるかをお互いの信頼関係に基づき真剣に考える事の出来る体制作りが急務であると感じました。いずれにしても、今回の女性ホームレス者がまた自立のきっかけがつかめるよう、引き続き見守っていききたいというこの頃です。

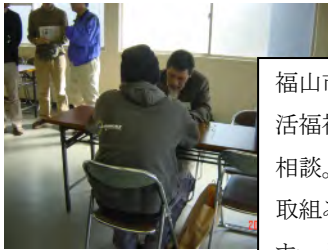
参考図書:リーボウ、E「ホームレス・ウーマン ー知ってますか。私たちのこと」東信堂 少し高い本。
アメリカの都市人類学者が食事サービスのボランティア活動を3年ほど行いながら、女性ホームレスとの話やインタビューをして書きあげた労作です。彼女達の複雑な社会的背景として、低賃金、不安定な雇用、失業、所属した家族の虐待、精神障害、知的障害、薬物依存症などの複雑な要因が絡み合っています。

福山のホームレス状態にある人たちの自立支援活動 東部支部 鳥海

●近況 福山では行政、社会福祉士会、社会福祉協議会、ボランティア団体(3団体)がこまめな情報交換を行う中でホームレスの人たちに対する支援活動を実施してきました。お蔭で、2001年～2004年の約60人をピークに徐々に減り始め、現在では15人をきるまでになりました。生活保護を受給してアパートへ入る人、年金の受給が可能となった人、仕事が見つかった人、家族と連絡が取れるようになり引き取られていく人…、さまざまな形で路上生活から脱却されていきました。社会福祉士会では、ボランティア団体の夜回り(炊き出し)活動に同行し、路上相談を実施しています。2007年9月から新しい社会福祉士も加わり、現在では4名が順番に活動に参加しています。

しかし、2008年の7月・8月に入り、若干、炊き出しに集まるホームレスの人たちが増えてきました。週によって人数の違いはあるのですが、今まで10人程度だったのが、平均30人程度の人たちが炊き出しを利用されるようになってきました。中高年のホームレスに混じって、若年者がいるのも気になる場所です。その若年者も軽い発達障害があるように感じられます。こうした人たちの路上生活からの脱却には福祉的支援が必要です。社会福祉士の力が発揮できる場面です。

●恒例となっている活動 福山はボランティア団体、行政機関、社会福祉協議会そして社会福祉士会が合同で「相談会&会食会」を4月と11月に実施しています。ケースワーカーや保健師・社会福祉士による生活相談・健康相談に加え、2007年は歯科医師がボランティアで参加。歯科相談を実施することができました。また、福山市行政からボランティア団体に助成金をいただき、弁護士による講話と法律相談を実施することができました。



福山市の保健師による健康相談、生活福祉課ケースワーカーによる生活相談。今回で6回目になります。この取組みで信頼関係が生まれ、多くのホームレスが“豊に上がり”自立生活をはじめました。



成田弁護士による講演。テーマは「解決できない借金はない」。野宿生活にいたる要因の一つが多重債務です。この多重債務の解決方法をわかりやすく解説していただきました。その後個別の相談にも応じていただきました。



検診の合間でボランティアと交流をします。屋根の下でイスに座りゆっくりと話すことは、普通の市民生活を思い出させ、野宿生活から脱却しよう、という動機にもつながります。

市民ボランティア講座の開催

●人材の養成●

市民ボランティア講座を開催し、ホームレスへの正しい理解と支援するボランティアを養成しています。この講座を受講した人たちが炊き出しのボランティアに参加し、活動が安定的に行われるようになりました。2007年は3月15日に福山すこやかセンターにて「市民講座 ホームレス問題を通して格差社会を考える」を実施。講師 堤 圭史朗さん(神戸女学院大学 講師)。参加者 23



人。

福山市内のホームレス支援に参加して (社会福祉士会東部支部) 中島 一

私は福山市内のホームレス支援に2007年9月から参加し始めました。まだまだ慣れないことが多いですが参加しております。最近では徐々にですがホームレスの皆さんも話しかけに応じてくれるようになりました。関わり始めたのがちょうど寒くなり始める時期であったため、健康状態が気になりました。実際に風邪をひいている方もいますが、市販の薬で対応していることが現状です。さらに昨年は雪の降る回数が例年より多く、寒い日数が長期化していました。食事でも栄養も不足し

がちで、睡眠も取りづらい環境で長引く一方です。寒さ対策としてアルコー

ルの摂取が多くなる傾向にあります。路上生活が長くなるとアパートに入居することが保証人や家主の考えなどからなかなか進まない。何らかの解決方法がないかと考えていますが、糸口がなかなか見つかりません。また収入源の問題として年金や生活保護への繋がりにくさや就労継続の難しさがあります。まだ支援が必要なすべてのホームレスへ活動が行き届いているのか不安があります。

今後の活動も路上生活から一人でも脱出できるように住居や収入などで生活環境・健康状態の改善ができるよう微力ながら協力していきたいと考えています。

ホームレス支援のためのボランティア講座	第1部(講演)「“現代の貧困をどう理解するか” —経済の貧困と関係の貧困」: 生田武志さん(『ルポ 最底辺—不安定就労と野宿』(ちくま新書)『<野宿者襲撃>論』(人文書院)若者の不安定就労と子どもの貧困問題、中高生への授業実践
2008(平成20)年12月21日(日) 13:00~16:30	第2部(話し合い) 私たちにできること
実習1 *都合の良い日に参加してください	A 夜回り活動に参加 (日程)12月から3月の毎週水曜日、(時間)20時30分~ (集合場所)西区「観音町カトリック教会」 B くつろぎ入浴サービスに参加 (日程)12月27日、1月9日、16日、24日、31日、2月6日、13日、21日、28日のいずれかの金曜日あるいは土曜日(場所)西区区内 「春よ来い」食事会の開催 2009(平成21年)3月8日(日)9:00~16:00*準備3月7日(土)
(参加費)1,000円(資料代、“春よ来い”食事会代、実習費等として) (申し込み先)広島県社会福祉士会、広島市南区比治山本町12-2、TEL:082(254)3019	

自宅でできる寄付ボランティア

こんなものがあると助かります。眠っている物品があれば、ぜひ寄付をお願いします。

■タオル、衣類(厚手のシャツ、洗濯済みのズボン、ジャンパー、セーター(とっくり付きが良い)、マフラー、ニット帽、ベルト、新品下着(トランクス型)、靴下、運動靴、スポーツバッグ、寝袋、自転車(防犯登録つきの中古)

●食料: お米、缶詰、即席カップ麺、レトルト食品、カレールー、日持ちする野菜(かぼちゃ、ジ

ヤガイモ、たまねぎ、だいこん、にんじん)など。

(寄付感謝)①社会福祉士会会員:自転車、ジーパン、②介護福祉士会会員(お二人):お米2表
※この他の物品の寄付については、事務局にご相談いただけると幸いです。